

【想定出題趣旨速報】

2026年度 慶應義塾大学ロースクール入試

刑訴

作成：The Law School Times 編集部

【刑事訴訟法】

設問 1

本問は所持品検査の適法性を問う問題である。所持品検査の法的根拠、所持品検査の適法性の判断基準の定立を論じた上で、問題文中に示された事情を定立した規範に則した形で当てはめていくことが求められる。所持品検査の適法性判断については保護される法益、その法益に対する侵害の程度について論じることが求められるだろう。本件では「施錠されていない」リュックサックの中に手を入れて内容物を取り出しているから、その行為がどのような態様なものでXのプライバシーをどの程度侵害しているかについて問題文中の事情を拾って当てはめていくことが望まれる。

設問 2

所持品検査の適法性判断をした上で、違法とされた所持品検査から収集された証拠物の証拠能力について論じる問題である。所持品検査と違法収集証拠排除法則について問われているときは規範定立にあたって不足なく論述すること、所持品検査や違法収集証拠排除法則に関する当てはめを充実させる必要がある。違法収集証拠排除法則の判断枠組みや理由・趣旨から要件を定立することが求められる。

解答にあたっては、明文の規定がないこと、証拠物の収集過程に違法があっても証拠物自体の価値に変わりがないこと、刑訴法1条・条文解釈による理由付け、要件定立、違法収集証拠排除法則の実質的な根拠（司法の廉潔性保持、将来の違法捜査抑制、適正手続の保障）、それらと要件の関係及び理由などについて論じると良いだろう。

以上